

# 四半期報告書

(第38期第3四半期)

ジョルダン株式会社



---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	4
1 【事業等のリスク】 .....	4
2 【経営上の重要な契約等】 .....	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	4
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	7
第4 【経理の状況】 .....	8
1 【四半期連結財務諸表】 .....	9
2 【その他】 .....	16
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	17

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月10日

【四半期会計期間】 第38期第3四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

【会社名】 ジョルダン株式会社

【英訳名】 Jorudan Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐藤俊和

【本店の所在の場所】 東京都新宿区新宿二丁目5番10号

【電話番号】 03(5369)4051(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画室長 岩田一輝

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区新宿二丁目5番10号

【電話番号】 03(5369)4051(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画室長 岩田一輝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第 1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第3四半期連結 累計期間	第38期 第3四半期連結 累計期間	第37期
会計期間	自 平成27年 10月1日 至 平成28年 6月30日	自 平成28年 10月1日 至 平成29年 6月30日	自 平成27年 10月1日 至 平成28年 9月30日
売上高 (千円)	3,237,914	3,278,294	4,385,355
経常利益 (千円)	369,553	401,848	496,877
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	197,119	267,253	250,554
四半期包括利益又は 包括利益 (千円)	138,311	306,131	183,975
純資産額 (千円)	4,354,396	4,551,867	4,399,746
総資産額 (千円)	5,602,811	5,657,647	5,469,183
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	37.77	51.70	48.00
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	77.4	80.3	80.2

回次	第37期 第3四半期連結 会計期間	第38期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成28年 4月1日 至 平成28年 6月30日	自 平成29年 4月1日 至 平成29年 6月30日
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	3.94	10.44

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式がないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(その他)

第2四半期連結会計期間より、杰昱(上海)信息技术有限公司は重要性が増したため持分法適用の範囲に含めております。

この結果、平成29年6月30日現在では、当社グループは、当社、子会社12社(うち連結子会社8社、持分法適用会社3社)及び関連会社6社(うち持分法適用会社2社)により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間（平成28年10月1日～平成29年6月30日）におけるわが国経済は、緩やかな景気回復基調が続いてまいりましたが、一方で海外経済の不確実性等に留意が必要な状況となっております。

情報通信業界におきましては、企業のソフトウェア投資は概ね横ばいの傾向となっておりますが、情報サービス業及びインターネット附随サービス業の売上高については前年同四半期（平成27年10月1日～平成28年6月30日）と比べ増加傾向となりました。また、個人のインターネットを利用した支出についても前年同四半期と比べ増加傾向にあります。このような中、スマートフォンの更なる普及（特にSIMフリースマートフォンの普及）に加え、IoTの進展やAI（人工知能）技術の進化等、情報通信に関する市場環境の変化は更に加速してまいりました。

当社グループにおきましても、この市場環境の変化に対応した事業展開のための基盤整備に取り組んでまいりました。「乗換案内」の各種インターネットサービス（携帯電話サイト・スマートフォンアプリ・スマートフォンサイト・PCサイト）の検索回数は平成29年3月には月間約2億1,900万回となりました。また、当該サービスの月間利用者数（無料サービスを月に1回以上ご利用いただいた方及び有料会員の方の合計）は当第3四半期連結累計期間においては1,000万人から1,200万人ほどとなっており、多くの方々に広くご利用いただいております。

このような環境の中で、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は3,278,294千円（前年同四半期比1.2%増）、営業利益は384,637千円（前年同四半期比7.5%減）、経常利益は401,848千円（前年同四半期比8.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は267,253千円（前年同四半期比35.6%増）という経営成績となりました。

売上高につきましては、乗換案内事業セグメント及びその他セグメントの売上高の増加が、マルチメディア事業セグメントの売上高の減少を上回り、全体として前年同四半期と比べ増加いたしました。営業利益につきましては、人件費及び外注費の増加等の影響により、前年同四半期と比べ減少いたしました。その一方で、経常利益につきましては、持分法による投資損益が大幅に改善し、また為替差損益の改善等もあり、前年同四半期と比べ増加いたしました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、経常利益の増加に加え、投資有価証券売却益の発生や投資有価証券評価損の減少、法人税等の負担率の減少等の影響により、前年同四半期と比べ大きく増加いたしました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### (乗換案内事業)

乗換案内事業では、広告等について、特に「乗換案内」のスマートフォンアプリにおける広告の販売が増加し、その売上高が前年同四半期と比べ大きく増加いたしました。また、法人向けの製品・サービスの売上高も増加いたしました。これらの影響が、旅行関連の事業やモバイル向け有料サービスにおける売上高の減少の影響等を上回り、乗換案内事業全体として売上高は前年同四半期と比べ増加いたしました。一方で利益面では、今後の展開を見据えた人員増強の影響等により販売費及び一般管理費が増加しており、前年同四半期と比べ減少いたしました。

それらの結果、乗換案内事業全体としては売上高3,129,820千円（前年同四半期比1.4%増）、セグメント利益600,263千円（前年同四半期比12.0%減）となりました。



#### (マルチメディア事業)

マルチメディア事業では、出版関連の事業における新刊タイトル数の状況等により、売上高は前年同四半期と比べ減少いたしました。これに伴い、利益面でも損失が拡大いたしました。

それらの結果、売上高49,872千円（前年同四半期比43.4%減）、セグメント損失15,086千円（前年同四半期は5,997千円の損失）となりました。

#### (その他)

受託ソフトウェア開発等の事業におきましては、案件の受注・納品が順調に推移したこと等により、前年同四半期と比べ売上高・利益は増加いたしました。

それらの結果、売上高112,869千円（前年同四半期比47.2%増）、セグメント利益9,976千円（前年同四半期比282.5%増）となりました。

なお、上記のセグメント別の売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しておりません。また、セグメント利益又は損失は、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間の内部取引費用の控除前の数値であり、合計は連結営業利益と一致しておりません。

### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末（平成28年9月末）と比較しますと、資産は188,463千円増の5,657,647千円、負債は36,342千円増の1,105,779千円、純資産は152,121千円増の4,551,867千円となりました。

資産は、流動資産につきましては、178,113千円増の4,504,975千円となりました。これは、現金及び預金が147,319千円増の3,467,847千円、前渡金が77,874千円増の327,655千円となった影響が、受取手形及び売掛金が48,960千円減の524,190千円となった影響を上回ったこと等によるものです。現金及び預金の増加は、主に四半期純利益の発生や前受金の増加によるものです。前渡金の増加は、季節的な要因により旅行関連の仕入に係る前渡金が増加していること等によるものです。受取手形及び売掛金の減少は、季節的な傾向として第3四半期連結会計期間の売上高があまり多くないこと等によるものです。

固定資産につきましては、10,349千円増の1,152,672千円となりました。これは、有形固定資産が4,695千円増の241,169千円、無形固定資産が12,524千円減の116,079千円、投資その他の資産が18,178千円増の795,423千円となったことによるものです。有形固定資産の増加は、設備更新等のための工具、器具及び備品の取得、為替変動の影響等によるものです。無形固定資産の減少は、主に償却が進んでいることによるものです。投資その他の資産の増加は、持分法適用関連会社に対する持分相当額の増加等によるものです。

負債は、流動負債につきましては、31,096千円増の1,090,765千円となりました。これは、未払費用が47,034千円増の111,894千円、前受金が117,840千円増の658,340千円となった影響が、未払法人税等が93,452千円減の52,197千円となった影響を上回ったこと等によるものです。未払費用の増加は、主に夏の賞与支給額の確定によるものです。前受金の増加は、季節的な要因により旅行関連の売上に係る前受金が増加していること等によるものです。未払法人税等の減少は、法人税等の支払が11月と5月に集中すること等によるものです。

固定負債につきましては、5,246千円増の15,013千円となりました。これは、繰延税金負債が5,209千円増の7,145千円となったこと等によるものです。

純資産は、株主資本が117,726千円増の4,468,483千円、その他の包括利益累計額が40,164千円増の73,982千円、非支配株主持分が5,769千円減の9,401千円となりました。株主資本の増加は、利益剰余金が199,399千円増の4,002,931千円となった影響が、自己株式が81,674千円増の99,115千円となった影響を上回ったこと等によるものです。利益剰余金の増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益が剰余金の配当を上回ったことによるものです。自己株式は、市場買付を行ったことにより増加いたしました。その他の包括利益累計額の増加は、その他有価証券評価差額金が21,051千円増の39,691千円、為替換算調整勘定が19,113千円増の34,290千円となったことによるものです。非支配株主持分の減少は、主に連結子会社の株式の追加取得によるものです。

### (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は14,113千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,000,000
計	19,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,255,000	5,255,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	5,255,000	5,255,000	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日	—	5,255,000	—	277,375	—	284,375

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 124,400	—	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,129,900	51,299	同上
単元未満株式	普通株式 700	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,255,000	—	—
総株主の議決権	—	51,299	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式43株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ジョルダン株式会社	東京都新宿区新宿2丁目 5番10号	124,400	—	124,400	2.37
計	—	124,400	—	124,400	2.37

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年10月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,320,528	3,467,847
受取手形及び売掛金	573,151	524,190
商品及び製品	6,849	4,848
仕掛品	7,716	6,306
原材料及び貯蔵品	237	4
前渡金	249,781	327,655
繰延税金資産	50,897	45,770
その他	128,906	140,497
貸倒引当金	△11,206	△12,145
流動資産合計	4,326,861	4,504,975
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	57,615	55,450
機械装置及び運搬具（純額）	5,131	2,986
工具、器具及び備品（純額）	89,779	95,175
土地	83,947	87,557
有形固定資産合計	236,473	241,169
無形固定資産		
のれん	5,877	2,938
ソフトウェア	119,832	107,827
その他	2,893	5,313
無形固定資産合計	128,603	116,079
投資その他の資産		
投資有価証券	527,563	548,370
敷金及び保証金	226,722	228,353
その他	35,985	30,434
貸倒引当金	△13,025	△11,735
投資その他の資産合計	777,245	795,423
固定資産合計	1,142,322	1,152,672
資産合計	5,469,183	5,657,647

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	169,675	165,719
未払費用	64,860	111,894
未払法人税等	145,650	52,197
未払消費税等	33,340	22,812
前受金	540,500	658,340
賞与引当金	66,060	47,150
役員賞与引当金	5,000	4,500
返品調整引当金	6,947	6,138
ポイント引当金	3,038	3,085
受注損失引当金	1,834	0
その他	22,763	18,926
流動負債合計	1,059,669	1,090,765
固定負債		
ポイント引当金	2,431	2,468
繰延税金負債	1,936	7,145
その他	5,400	5,400
固定負債合計	9,767	15,013
負債合計	1,069,437	1,105,779
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	277,375	277,375
資本剰余金	287,290	287,291
利益剰余金	3,803,532	4,002,931
自己株式	△17,440	△99,115
株主資本合計	4,350,756	4,468,483
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,640	39,691
為替換算調整勘定	15,177	34,290
その他の包括利益累計額合計	33,817	73,982
非支配株主持分	15,171	9,401
純資産合計	4,399,746	4,551,867
負債純資産合計	5,469,183	5,657,647

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
売上高	3,237,914	3,278,294
売上原価	1,758,122	1,795,009
売上総利益	1,479,791	1,483,284
返品調整引当金戻入額	6,815	6,947
返品調整引当金繰入額	8,015	6,138
差引売上総利益	1,478,591	1,484,093
販売費及び一般管理費	1,062,745	1,099,455
営業利益	415,846	384,637
営業外収益		
受取利息	555	528
受取配当金	3,745	7,395
持分法による投資利益	-	3,008
為替差益	-	6,393
受取事務手数料	4,508	2,157
雑収入	1,971	751
営業外収益合計	10,780	20,234
営業外費用		
持分法による投資損失	49,438	-
投資事業組合運用損	1,709	2,433
為替差損	5,614	-
雑損失	311	589
営業外費用合計	57,073	3,023
経常利益	369,553	401,848
特別利益		
固定資産売却益	-	479
投資有価証券売却益	-	9,500
特別利益合計	-	9,979
特別損失		
固定資産除却損	8	0
投資有価証券評価損	10,000	-
子会社株式評価損	-	564
子会社清算損	-	0
特別損失合計	10,008	565
税金等調整前四半期純利益	359,544	411,262
法人税等合計	162,537	145,295
四半期純利益	197,007	265,966
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△112	△1,286
親会社株主に帰属する四半期純利益	197,119	267,253

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	197,007	265,966
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11,895	8,081
為替換算調整勘定	△22,991	14,498
持分法適用会社に対する持分相当額	△23,809	17,584
その他の包括利益合計	△58,696	40,164
四半期包括利益	138,311	306,131
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	138,423	307,417
非支配株主に係る四半期包括利益	△112	△1,286



【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)

(持分法適用の範囲の重要な変更)

第2四半期連結会計期間より、杰昱（上海）信息技术有限公司は重要性が増したため持分法適用の範囲に含めております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)
減価償却費	106,041千円	88,005千円
のれん償却額	2,938千円	2,938千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年10月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年12月22日 定時株主総会	普通株式	67,854	13.00	平成27年9月30日	平成27年12月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年12月22日 定時株主総会	普通株式	67,854	13.00	平成28年9月30日	平成28年12月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成28年11月10日開催の取締役会決議に基づき、平成28年11月17日から平成28年12月14日の期間において、市場買付により37,200株、29,919千円の自己株式を取得いたしました。同じく、平成29年2月9日開催の取締役会決議に基づき、平成29年2月13日から平成29年3月17日の期間において、市場買付により51,800株、51,754千円の自己株式を取得いたしました。これらの結果、当第3四半期連結会計期間末における自己株式は124,443株、99,115千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年10月1日 至 平成28年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	乗換案内事業	マルチ メディア事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	3,086,788	88,099	3,174,888	63,026	—	3,237,914
セグメント間の内部 売上高又は振替高	342	—	342	13,676	△14,019	—
計	3,087,131	88,099	3,175,230	76,702	△14,019	3,237,914
セグメント利益 又は損失(△)	682,362	△5,997	676,364	2,608	△263,126	415,846

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託開発ソフトウェア業、情報関連機器リース業等を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△263,126千円には、のれん償却額△2,938千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△260,188千円が含まれております。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	乗換案内事業	マルチ メディア事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	3,129,085	49,872	3,178,958	99,336	—	3,278,294
セグメント間の内部 売上高又は振替高	734	—	734	13,533	△14,268	—
計	3,129,820	49,872	3,179,692	112,869	△14,268	3,278,294
セグメント利益 又は損失(△)	600,263	△15,086	585,177	9,976	△210,515	384,637

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託開発ソフトウェア業、情報関連機器リース業等を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△210,515千円には、のれん償却額△2,938千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△207,576千円が含まれております。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	37円77銭	51円70銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	197,119	267,253
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	197,119	267,253
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,219	5,169

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年8月10日

ジョルダン株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大田原吉隆

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 矢部直哉

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているジョルダン株式会社の平成28年10月1日から平成29年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年10月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ジョルダン株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

**【表紙】**

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年8月10日
【会社名】	ジョルダン株式会社
【英訳名】	Jorudan Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤俊和
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都新宿区新宿二丁目5番10号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長佐藤俊和は、当社の第38期第3四半期（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。